



キャンパス点描
— 本館1階（学生課・ラーニングコモンズ） —



今回登場の本館は文学部キャンパスの
中心的な建物で、五年前に建て替えられた。



第19号

2023年
6月25日発行

日本大学国文学会

同窓会誌



改築前は現在位置より数メートル、1号館寄りに建っていた。裏手には中庭を挟んで5・6号館があったが、その跡地に駐車場に於てられた。当館には主な事務系各部署と社系及び一部理系の研究室が入る。

下段写真、カウンターの前に立つのは国文学科出身の学生課職員、許藝涵さん（第17号「OBOGだより」に寄稿あり）。

OB・OGだより

「物語」とは何か

江藤 広一郎

学生時代からことあるごとに「物語」という言葉について考え、そして同時に悩まされてもきた。この言葉は定義付けを拒む。状況に応じて変幻自在に姿を変えてしまう妙な力を持っている。話の筋みたいなのを指す場合もあれば、よりナラティブなものとして扱われることもある。本の代名詞のように使われたりもしている。もちろんほかにもあるだろう。年を経て解決するかなと思いきや、逆に様々な用例に遭遇してきたせいかな、より不思議な言葉となり、その難解さへのこだわりは増すばかりであった。

昨年のことだが、そんな多様な姿を持つ「物語」という言葉でしか表現できない出来事があった。キックボクシングの興行「THE MATCH」にまつわることだ。この大会は、那須川天心と武尊という二人の格闘家が戦うために開かれたものといっても過言ではない。対戦が望まれたのは

実に興行の約七年前。試合実現を願ひ、何十万もの人々が声をあげた。那須川天心は試合前に「物語を終わらせる」と言っだし、ファン達もこれを「物語」と認識していた。しかし、この「物語」は書かれたもの以上に定型がない。まさに「物を語る」ことの積み重ねによって完成したものだ。多くの人が様々な想いをのせて語ったことが一つの「物語」足り得たのだ。

「物語」とは何であるのか。未だにわからないが、先の格闘家の「物語」に接したことで、この言葉が多様であることの意味は少しだけ理解できたような気がした。

[平成31年国文学科卒業]

校正の仕事

高橋 奏子

昨年九月に通信教育部を卒業し、校正プロダクションに所属するフリーランスの校正者として働き始めた。いまは主に商業パンフレットやマニュアル、雑誌などの校正を請け負っている。

校正のよくある作業の一つは、印刷会社の作ったゲラがクライアントの原稿通り組

まれているかを確認することだ。特にチラシやカタログの場合、価格が一字違っただけで大問題なので、ゲラと原稿を一字ずつ見比べる。原稿にクライアントからの修正が入っており、それがきちんと反映されているかをチェックすることもある。他に、文章を読んで誤字・脱字を見つけたら、表記のゆれを指摘したりする「素読み」という作業がある。表記のゆれとは、たとえば文章の中で「ゆれ」や「ユレ」、「揺れ」といった表記が混在していることを指す。さらに、人名や地名等が合っているかを調べる「事実確認」という作業もある。

明らかな誤字・脱字や数値の間違いには迷いなく赤字を入れることができる。しかし、より文章を読みやすくするための指摘は一つの提案でしかなく、採用されるかどうかかわからない。そのため、この指摘は必要だろうか、余計なことではないだろうかという悩みがつきまとう。校正には正解といえるものがないので、悩みは尽きない。それでも、書き手が伝えたいことを汲みとり、読む人によりわかりやすく届けるための手助けができればという思いで、日々の仕事に取り組んでいる。

[令和4年文学専攻(国文学)卒業]

談話室

①

日本大学を去るにあたって

萩野 綱男

私は二〇二三年三月をもって日本大学を退職した。

退職にあたっての整理は大変だった。研究室内の整理は1年くらい前から始め、大学に来るたびに退職後に使わないであろうものを順次処分していった。本棚、ファイルキャビネット、机の引き出しの中などにあったものを大量に捨てることになった。

意外に大変だったのは、メールアドレスの整理である。大学から割り当てられたアドレスは、数年前からなるべく使わないようにし、メインアドレスを自宅で契約しているプロバイダのものにした。この結果、学外の人とのメールのやり取りはほぼ自宅アドレスで行うことになったので、退職時に多数の人に個別にアドレス変更を通知する必要はなく、アドレスの整理は簡単だと考えていたが、そうではなかった。

ネット内のいろいろなサイトで利用者登

録をするときに、大学のアドレスを登録していたケースがかなりあった。たとえば大学の研究費で買ったソフトなどが典型である。また、大学のアドレスを利用したメールングリストも十個以上作ってあった。それらに一つ一つアクセスして、削除するべきものは削除し、自宅のアドレスに変更できるものは変更した。

メールアドレスの変更とともに、退職したことの通知が必要なケースがあった。多くの学会では会員情報として勤務先名称などが登録されている。そこで、個々の学会のサイトにアクセスして勤務先情報を書き換えることになった。個人のクレジットカードのようなものでも、勤務先が登録されていたりするので、その情報を書き換えなければならなかった。銀行や保険会社、証券会社などの個人の口座にも勤務先が登録されているケースがある。

何を変更するべきかは、自分であれこれ考え、パソコン内のファイルにリストアップし、変更するたびにそれを記録した。

全部を網羅的に変更するのは大変である。たとえばクレジットカードのような場合でも、勤務先が登録されていない場合もある。今後は、気がついたら修正するような形で

対処していこうと考えている。

*

私自身は、日本大学に着任する前にいくつかの国公立大学で教鞭を執ってきた。それらと比べると、日本大学はとても刺激的な大学だと感じた。

教育面でいうと、日本大学の学生は、ピョンからキリまでの幅が大きく、扱いに困るようなケースもある一方で、ずば抜けて優秀な学生もいる。これに比べると、国公立大学の学生はレベルが揃っている。こういう日本大学の学生の多様性は、教員と学生の間で、また学生相互の間で、お互いに刺激的な状況ではないかと思う。

研究面でいうと、文理学部内で学科の枠を超えた共同研究（理系の研究者も含む）を何回か行うことができ、それはいろいろな意味で刺激的であった。違う考え方に接することで、自分のものの見方が広がるという新しい経験をすることができた。

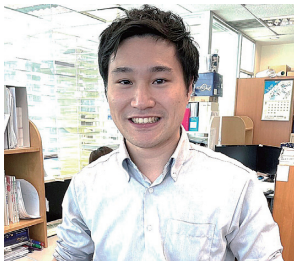
*

日本大学での私の十七年間を振り返ってみると、さまざまな面で実にたくさんの人に助けていただいたことが思い出される。心から感謝するしだいである。

〔国文学科元教員〕

わたしの仕事

日本語教師



私は大学三年から留学生サポーターとして活動していた。そこで日本語初級レベルの学習サポーターに携わり、その体験が日本語教師への道を歩むきっかけとなった。

最初は、日本語の音声を聴いた後に続けて声に出したり、教科書の文を音読するなど、スムーズに日本語が言えるようになることを目標とした。しかし、ただ読んだり聴いたりするだけの繰り返しでは単調になりがちで、もう少し工夫が必要なのに気づいた。そこで、ある程度レベルが進んだ段階では、実際の会話の場面を想定して練習した方がさらに楽しく学べるのではない

かと考え、それからは学生にとって身近なことを話題の中心にして練習するようにした。たとえばGoogleマップを使い、最寄駅から大学までの道順を「そこを右に曲がってください」のように、場に即して案内してもらった。これだけで学生は積極的になった。教える側としても、回を重ねることに上達していく姿を見て、やり甲斐を感じたものだ。こうした経験から日本語教師をめざす決心をし、大学の授業と並行して日本語養成講座を受講した。これを半年で修了し、大学卒業と同時に、縁あってここシンガポールで日本語教師として働くことになった。希望通りの海外勤務である。

当地では現在、初級クラスを担当している。一クラス十人ほどで、年齢も学ぶ理由も様々。シンガポールは多民族国家で、言語環境も多様性に富む。事実上の共通言語は英語だが、日本語教育では、英語などの媒介語を使わず直接法で行う。そのため身振り手振りを交えての授業となる。実際の教室内での授業方法としてはそれ以上の工夫が必要で、毎回具体的な会話の場面を設定して臨むようにしている。

たとえば、「私は〇〇が欲しい」を教える時、仮にお金が必要とする場面では、まず空っぽの財布を持参してお金のない現状を

示し、次にお金や絵カードなどで欲しいものの実体を見せる。こうして個々の場面で求められる適切な言葉遣いや文法のあり方を理解してもらおう。そのために学生のリベルに応じた例をできるだけたくさん用意しておかねばならない。簡単なようであるが、実はこの事前準備が大変なのだ。日本語教師は、学生とともに自分も成長できるとてもやりがいのある仕事だと感じている。

最後に、日本語教師として働くには資格が必要だが、その取得方法には、「日本語教育能力検定試験」に合格する、「日本語教師養成講座」を修了する、「大学の日本語教育に関するプログラム」を修了する、以上の三つの選択肢がある。私は先にも触れたように養成講座を利用したが、模擬授業が50回以上体験でき、就職サポーターも受けられる、という養成講座の方が自分にとって有益と判断したからだ。この一文を読んで日本語教師という仕事に関心をもたれたならば、ぜひ検討・挑戦して欲しい。

上原 孝二（うえはら こうじ）
平成11年4月22日生まれ。
令和3年3月国文学科卒業。在学中は日本語学専攻の荻野ゼミに所属。卒論は「www」における汎用的な形容詞の意味・用法の考察」。趣味はフットサルと料理を作ること。

談話室

②

大学を退いて飲食店の亭主になりました

紅野 謙介

「どうして飲食店を始めたんですか？」ほぼ誰もが同じ質問になる。たしかに定年退職した元大学教員が飲食店経営を始めたというのはあまり聞いたことがない。

食べることも飲むことも大好きで、新宿ゴールデン街や銀座の飲み屋をよくハシंगしていたのが三十歳前後。学部の改革を進めるべく同僚たちと夜な夜な語り合うときも、飲食店は不可欠だった。場所が議論の場をつくり、想定外の喧嘩や接触を呼び起こす。それがエネルギー源だと思っていた。

東日本大震災のあと、福島の大柴村で放射能除染を進めながら化学肥料にたよらずに作られた自然米を知り、そのあまりの美味しさに驚愕した。以後、連れ合いとその仲間たちの大柴村ツアーが始まり、ついに農事支援が高じて田んぼを借りて米作りするにまでいった。借りた家の農家のおばあちゃんが長ネギをはじめとする野菜作り

の名手で、彼女が亡くなるまでいろいろな教えを受けた。学部執行部の仕事のあいまを縫って農事イベントに出かけ、田植えや稲刈りを手伝い、ドローンを飛ばしてそのすがたを動画に撮ったりもした。

大柴村にやってきたのは東京ものばかりではない。教え子のひとりが震災後の復興ボランティアで南三陸に入り、そのまま定住して、結婚もした。その彼女が家族や友人をつれて参加する。なかには南三陸で家族の大半を津波で失った漁師もいた。彼が持参する牡蠣のオイル漬けやホヤ、わかめは言葉にしがたいほどうまかった。大柴村の農家さんたちとともに、南三陸の震災遺構をたどるツアーも実行したことがある。大学の仕事、研究者としての仕事のほかに、十年近くこうした人たちと協働作業をつづけていたのである。

水俣病患者の二世、もう中年になった漁師さんが「やうちブラザーズ」というセミプロのコミックバンドをやっていて、あまりに面白いバンドだから大柴村に招待した。裸で腰裏つけてジャンベを鳴らす彼らに、農家の人たちは興奮した。復興だ、除染だという真面目な仕事ばかりじゃつまらない。俺たちもジャンベー、叩いてみたい。誰か

教えてくれる人を探してくれ。いやいや、福島までジャンベを教えに来てくれる人などいるはずもないぞ。あれこれ探して、沖縄のNPO法人珊瑚舎スコーレというフリースクールからツテをへて、自由の森学園で田中浜にジャンベを習ったという人物を紹介された。その彼が毎月、福島まで通い、村でジャンベを教えてくれた。

一緒に飲み食いのうちに、彼がすぐれた料理人であることが分かった。それから八年。前職のレストランに興味を失い、転職を探っているという。ラッパで、長くスナックで働いた経験もある教え子のひとりも転職しようという。ちょうどぼくもリタイアの年にあたる。連れ合いは定年まであと五年。コロナ明けで、絶妙のタイミングだ。四人で新たな事業を始めようじゃないか。マネージメントはぼくがやる。こうして「ごはん屋たまり」は動き出した。

準備に八ヶ月、開店して半年。飲食は三年以内に七割が閉店するという。どうなるか未知数だが、食材、調理、酒には自信がある。困難だからこそ、やりがいも湧く。さて、お客さまのエネルギー源となる場所ができるかどうか。楽しみは尽きない。

[国文学科元教員]



通信教育部

文学専攻（国文学）

鈴木雅裕先生担当

卒業論文指導



◆受講生から

4年・井瀬 萌

ゼミのない通信教育部では、自分の研究テーマに沿った専門領域を持つ先生のもとで、「卒論手帳」やオンライン・対面での面談などを通じて指導を受けながら、卒業論文を書いていきます。指導は基本的に「一

対一」ですが、学生同士で話し合う機会もあります。通信教育部は年齢や経験などが違う学生たちが集まる場所です。だからこそ、互いの情報のやりとりは貴重で刺激にもなります。何よりもそうした時間を共有できることは楽しいものです。ちなみに、お菓子とお喋りが大好きな鈴木先生の指導はとても和気あいあいとしています。

私の研究テーマは『こころ』と色の関係性についてで、色彩表現から作品を読み解こうとする試みです。テーマ設定の動機は、夏目漱石の『こころ』が好きなこと、高校の課題研究で色彩心理学を扱ったこと、目指している国語科教員になった際の指導に役立てたいと思ったことなどです。

今は自分の興味・関心に関する再確認をしている段階ですが、先生と相談する、調査する、書く、相談する……これを繰り返すことで、おのずと卒業論文として形作られていくものだと思っています。

◆教員から

鈴木 雅裕

通信教育部の卒論指導は、一般指導・個別指導・専門指導という三段階で行われます。一般・個別指導は私が担当し、卒論とは何かということから、テーマや問いの設定を経て、卒論の方向性を練り上げるとこ

ろまでを扱っています。以前は「卒論手帳」のやりとりによる指導が主でしたが、現在ではオンライン式も可能となりました。

専門指導は、文学部国文学科の先生方とも協力しながら、上代・中古・中世・近世・近現代・日本語学の各分野の専門の教員が指導にあたっています。私の担当分野は後述するように上代文学ですが、年度によっては他分野の卒論も担当します。昨年度の指導例をあげると、『古事記』における大國主と「異界者」―古代の「王」に見られる対話性をめぐって―がありました。

以上のように卒論指導は段階を踏んで進みますが、どの段階でも重視されるのは学生の主体性です。卒業論文は大学生活の集大成である、ということを強く意識して取り組まれることを切に願っています。

▼鈴木雅裕先生の研究領域

『古事記』を中心に、『日本書紀』『万葉集』などの上代文学を研究しています。たとえば『古事記』に記された神話や物語の表現分析を通じて、その総体としてある古代の知の体系や論理を解き明かすことを課題としています。

なお、今年度の演習科目では、受講生と古代歌謡の読解にも挑戦しています。

1970年(昭和45年)

- 1月14日第三次佐藤榮作内閣発足。
- 2月11日東京大学宇宙航空研究所、国産初の人工衛星「おおすみ」の打ち上げに成功。同研究所は現在、宇宙航空研究開発機構(JAXA)となる。
- 3月14日大阪千里で日本万国博覧会開幕。
- 3月31日よど号ハイジャック事件。日航機が共産主義者同盟赤軍派に乗っ取られ、北朝鮮へ。
- 4月10日ビートルズ、事実上の解散。
- 5月23日竹内金治郎教授退職
- 5月24日『語文』第三十三輯刊行(竹内金治郎先生古稀記念論文集)
- 5月31日ペルー北部で大地震(M7.5)。死者7万人。
- 6月23日日米安保条約、自動延長。反安保統一行動は全国で77万人が参加。
- 7月12日日本大学国文学会総会開催
- 10月1日国勢調査。人口1億372万人。
- 11月14日学術研究発表会開催
- 11月25日三島由紀夫、陸上自衛隊市ヶ谷駐屯地で決起を呼びかけ、割腹自殺(45歳)。
- 12月18日公害関係14法案成立。
- 12月19日大学院学術研究発表会開催



男性化粧品「マンダム」ヒット



トミー「トミカ」発売



現存する「太陽の塔」



万博シンボルマーク

国文学科ヒストリー 19

【国内外の動き】 当年の国内最大のイベントといえば大阪千里で半年間にわたって繰り広げられた日本万国博覧会だろう。延べ六四二二万人が入場したという。岡本太郎作のモニュメント「太陽の塔」は今日なお高く評価されている。三波春夫が歌うテーマソング「世界の国からこんにちは」が大ヒット。現在六〇歳代後半の人は遠足や修学旅行で訪れたはず。万博開幕後、ほどなくして赤軍派による日航機よど号ハイジャック事件が起きた。犯人グループは比命として平壤へ向かうことを要求。一度、福岡の板付空港に着陸し、ついで平壤と見せかけて韓国の金浦国際空港へ着陸したもの、偽装が見破られる。犯人たちと政府代表との交渉の結果、乗客たちは解放され、その身代わりとして山村新治郎運輸政務次官が人質となり、4月3日平壤へ。現在、犯人9人のうち、存命は4人、三島由紀夫の引き起こした「三島事件」も衝撃的ニュースとして深く記憶の底に刻まれることになった。光化学スモッグやヘドロなどの公害問題が広く注視された年でもあった。

【学内外の動き】 7月、日本大学国文学会総会が開催され、安藤亨子、井上謙、松尾拾らの研究発表があり、高木市之助氏の「国文学研究における進歩と調和の意味について」と題する講演が行われた。10月、大学担当理事制を廃止、常任理事制を実施。11月、高岡日本大学高等学校を準付属校取扱（現、高岡向陵高等学校）。

研究室訪問 一問一答



久保木秀夫(中世文学専攻)研究室

- ①一番好きな食べ物は何ですか。
桂花のターロー麺。完全栄養食です。
- ②おすすめの本を1冊あげてください。
三宅乱丈『イムリ』。苛烈壮絶な展開のSFファンタジー漫画。読まないとい生人の損失です。
- ③学生時代のアルバイトといえば？
渋谷の映画館で4年間、呼び込みから列整理、モギリ、売店、日計報告まで。
- ④好きな映画を教えてください。
ゴッドファーザー1・2は外せません。
- ⑤現在の夢は何ですか。
海外ドラマを視聴するだけで生計を……。

掲 示 板

国文学科短信

令和4年度国文学科学学位記伝達式が3月25日、オーバルホールにて開催された。

荻野綱男（日本語学）と紅野謙介（近現代文学）の両先生がご退職。新たに専任教員として井上優先生（日本語学）をお迎えした。助手・副手の研究室スタッフには異動なし。

入構時の体温チェックが廃止され、授業も対面式（一部遠隔式）で始まった。サークルの新入生勧誘活動も復活し、かつての新学期の賑わいが戻ってきたようだ。5月8日には新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けがインフルエンザと同じ5類に移行した。一方、第9波が起きる可能性も報道された。

国文学会大会案内

大会の開催方式は対面式と決定しました。

日時：7月8日（土）

12:30 評議員会／13:30 開会の辞

13:40 研究発表

①金愛蘭（文理学部准教授・日本語教育）

②井上優（文理学部教授・日本語学）

③松崎寛（文理学部教授・日本語教育）

15:50 講演、藏中しのぶ氏

（大東文化大学教授）

16:50 総会／17:30 閉会の辞

詳細は国文学科サイトの「お知らせ」でご確認ください。

下高井戸商店街とその周辺

日大通りの飲食店の閉店が相次いでいる。ざっとここ30年の動向を大学に近い方から駅前まで、思い出すままに。「富士屋食堂」は知らぬ間に閉店。「精進軒」は整骨院に。蕎麦「日之出屋」は携帯ショップに。「サイゼリア」「日高屋」「大戸屋」撤退。中華「康楽」は「家宴」に。ハンバーグ「ウィンキー」、「とんかつ道中」なし。「CoCo 壱番屋」「珈琲館」「Poem」健在。裏通りのきしめんが評判だった旭鮎系「天喜代」は7年前に建物だけ残して閉まる。今年1月、イタリ안의「虫の巣」閉店。開店時から知るだけに残念。ラーメン「木八」7年前に閉店。並びの「さか本そば店」は健在だが、大衆食堂「よ志み」は8年前、さらに先の洋食「いずみ」とその奥にあった体育会系大盛り中華「GOHAN」はとっくの昔に閉店。ハンバーガーチェーンは1軒も定着せず。学生コンパ御用達の居酒屋「庄や」「笑笑」「きちん」と全滅。結局、老舗「たつみ」だけ頑張る。漏れもありましょう。卒業生の皆さん、この機会に思い出の商店街、再訪されてみてはどうでしょう。

同窓会員募集のご案内（郵便振替口座 00180-3-11183 日本大学国文学会）

国文学会では国文学科の卒業生（大学院・通信教育部を含む）を対象に同窓会員を募集中です。学会行事へ参加していただけるほか、機関誌『国文通信』を年2回お届けします。会費は郵便振替にて1,000円（2年分）から。振込用紙に卒業年次と「同窓会員入会」と明記してご送金くださいれば手続き完了です。国文学科サイトにも詳しい案内記事を掲載しています。

第19号

2023年
6月25日発行

日本大学文理学部国文学科
国文通信編集委員会
〒156-8550
東京都世田谷区松上3-25-40

鈴木功真・竹下義人

国文通信編集委員会

では4号館をとりあげる。

（義）

編集後記

本誌では皆様からの投稿を随時受け付けています。エッセイのほか、同窓会の案内や報告なども歓迎します。詳細は本誌編集委員会宛、お問い合わせください。

電子メールは国文学科サイト内に設置してある「お問い合わせ」フォームから送信できます。感想などもお寄せください。

◆執筆者の皆様のご協力により、19号も滞りなく発行できました。◆7

月の国文学会総会をもって役員改選の時期を迎える。本誌の発行時期とはズレるが、編集担当も交代する予定。◆8号からの編集委員、紅野謙介先生が3月で退職された。この間、学部執行部の要職にありながら、執筆者の推薦から最近の「国文学科ヒストリー」執筆までご尽力を賜った。◆今号の「キャンパス点描」の写真撮影は、専属カメラマンになりつつある副手の杉本なつみさんをお願いした。次号